

演習問題 2.20 次のベクトルの組が 1 次独立かどうか調べよ。

$$(1) \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ a \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 4 \\ b \\ 2 \end{pmatrix} \text{ ただし } a, b \text{ は各自の出席番号の下 2 桁と 1 桁。}$$

$$(2) \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \\ q \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ p \end{pmatrix} \text{ ここで } p, q \text{ はある定数。}$$

これはもう解説はいりませんね。分からない人は最初に 3 次元ベクトルの所の 1 次独立の説明を読んで下さい。(2) は  $p, q$  の値によって場合分けが必要になります。どのような場合に分けるかは 1 次独立の定義にしたがっていけば自然に分かるはずですが、割算を実行する必要が出て来たとき、割る数がゼロがどうかの場合分けです。

演習問題 2.21  $x_1, x_2, x_3$  は 1 次独立とする。 $y_1 = x_1, y_2 = x_1 + x_2, y_3 = x_1 + x_2 + x_3$  に対し、 $y_1, y_2, y_3$  は 1 次独立かどうか調べよ。

また  $y_1 = x_1 + x_2, y_2 = x_2 + x_3, y_3 = x_3 + x_1$  に対し  $y_1, y_2, y_3$  が 1 次独立かどうか調べよ。

更に  $y_1 = x_1 - x_2, y_2 = x_2 - x_1, y_3 = x_1 + x_3$  に対し  $y_1, y_2, y_3$  が 1 次独立かどうか調べよ。

$a_1 y_1 + a_2 y_2 + a_3 y_3 = 0$  が成立しているとする。 $a_1 y_1 + a_2 y_2 + a_3 y_3 = a_1 x_1 + a_2(x_1 + x_2) + a_3(x_1 + x_2 + x_3) = (a_1 + a_2 + a_3)x_1 + (a_2 + a_3)x_2 + a_3 x_3$  となるので、 $a_1 + a_2 + a_3 = 0, a_2 + a_3 = 0, a_3 = 0$  が成立する。これを解くと  $a_1 = a_2 = a_3 = 0$  となるので、 $y_1, y_2, y_3$  は 1 次独立である。

次に  $y_1 = x_1 + x_2, y_2 = x_2 + x_3, y_3 = x_3 + x_1$  の場合を考える。 $a_1 y_1 + a_2 y_2 + a_3 y_3 = 0$  が成立しているとする。 $a_1 y_1 + a_2 y_2 + a_3 y_3 = a_1(x_1 + x_2) + a_2(x_2 + x_3) + a_3(x_3 + x_1) = (a_1 + a_3)x_1 + (a_2 + a_1)x_2 + (a_3 + a_2)x_3$  となるので、 $a_1 + a_3 = 0, a_2 + a_1 = 0, a_3 + a_2 = 0$  が成立する。これを解くと  $a_1 = a_2 = a_3 = 0$  となるので、 $y_1, y_2, y_3$  は 1 次独立である。

最後に  $y_1 = x_1 - x_2, y_2 = x_2 - x_1, y_3 = x_1 + x_3$  の場合を考える。 $a_1 y_1 + a_2 y_2 + a_3 y_3 = 0$  が成立しているとする。 $a_1 y_1 + a_2 y_2 + a_3 y_3 = a_1(x_1 - x_2) + a_2(x_2 - x_1) + a_3(x_1 + x_3) = (a_1 - a_2 + a_3)x_1 + (a_2 - a_1)x_2 + a_3 x_3$  となるので、 $a_1 - a_2 + a_3 = 0, a_2 - a_1 = 0, a_3 = 0$  が成立する。これを解くと  $a_1 = a_2, a_3 = 0$  となる。この解の中には  $a_1 = a_2 = 1, a_3 = 0$  の様に 0 以外の解が存在する。よって  $y_1, y_2, y_3$  は 1 次独立ではない。

演習問題 2.22 次のベクトルの組がベクトル空間  $V$  の基底である事を示せ。

(1)  $V = K^n$  で、ベクトルの組は基本ベクトル  $e_1, \dots, e_n$

$$(2) V = K^3 \text{ でベクトルの組は } \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$(3) V = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{K}^3 \mid x + y + z = 0 \right\} \text{ でベクトルの組は } \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

$$(4) V = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} \in \mathbf{K}^4 \mid x - y + z + w = 0 \right\} \text{ でベクトルの組は } \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

(3)のみ示しておく。このタイプは確実にできるようになっておく事。

$$\mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}, W = \langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \rangle \text{ とおく。 } a_1 \mathbf{x}_1 + a_2 \mathbf{x}_2 = a_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} + a_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ -a_1 - a_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \text{ から } a_1 = a_2 = 0 \text{ が従うので, } \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \text{ は 1 次独立である。 } \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \in V$$

となるので,  $W \subseteq V$  が成立する。  $V$  の任意のベクトル  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$  に対し  $x_1 + x_2 + x_3 = 0$  が成立している。

$$\begin{aligned} \mathbf{x} &= \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ -x_1 - x_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_1 \\ 0 \\ -x_1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 \\ x_2 \\ -x_2 \end{pmatrix} \\ &= x_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} + x_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} = x_1 \mathbf{x}_1 + x_2 \mathbf{x}_2 \end{aligned}$$

と表せるので,  $\mathbf{x} \in W$  となり,  $V \subseteq W$  が分かる。1次独立性と  $W = V$  から  $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$  が基底である事が分かる。

**演習問題 2.23** ベクトルの組  $v_1, \dots, v_n$  が1次独立である事と次は必要十分である。「任意の  $i = 1, \dots, n$  に対し,  $\langle v_1, \dots, v_{i-1} \rangle \subsetneq \langle v_1, \dots, v_{i-1}, v_i \rangle$  が成立する。ただし,  $\langle \rangle = \{\mathbf{0}\}$  とする。

「この事を証明せよ。」という文句が抜けていますが, まあわかりますね。

$v_1, \dots, v_n$  が1次独立であるとする。結論を否定して, ある  $i$  に対して  $\langle v_1, \dots, v_{i-1} \rangle = \langle v_1, \dots, v_i \rangle$  が成立しているとする。このとき  $v_i \in \langle v_1, \dots, v_{i-1} \rangle$  なので, スカラー  $a_1, \dots, a_{i-1}$  が存在して,  $v_i = a_1 v_1 + \dots + a_{i-1} v_{i-1}$  となる。  $a_1 v_1 + \dots + a_{i-1} v_{i-1} + (-1)v_i = \mathbf{0}$  と変形でき,  $-1 \neq 0$  なので1次独立ではない。

任意の  $i$  に対し  $\langle v_1, v_{i-1} \rangle \subsetneq \langle v_1, \dots, v_i \rangle$  が成立しているとする。  $i = 1, \dots, n$  に対して,  $v_1, \dots, v_i$  が1次独立である事を数学的帰納法で示す。

$i = 1$  のときは  $\langle \rangle \subsetneq \langle v_1 \rangle$  となるので,  $\{0\} \subsetneq \langle v_1 \rangle$  となる。よって  $v_1 \neq 0$  となるので,  $v_1$  は 1 次独立である。帰納法の仮定より  $v_1, \dots, v_i$  が 1 次独立である仮定する。スカラー  $a_1, \dots, a_i, a_{i+1}$  が存在して,  $a_1 v_1 + \dots + a_i v_i + a_{i+1} v_{i+1} = 0$  となるとする。  $a_{i+1} \neq 0$  のとき  $v_{i+1} = -\frac{a_1}{a_{i+1}} v_1 - \dots - \frac{a_i}{a_{i+1}} v_i$  となるので,  $v_{i+1} \in \langle v_1, \dots, v_i \rangle$  となる。よって  $\langle v_1, \dots, v_i \rangle = \langle v_1, \dots, v_i, v_{i+1} \rangle$  となり矛盾。よって  $a_{i+1} = 0$  である。よって  $a_1 v_1 + \dots + a_i v_i = 0$  となるが,  $v_1, \dots, v_i$  は 1 次独立なので,  $a_1 = \dots = a_i = 0$  となる。よって  $v_1, \dots, v_{i+1}$  は 1 次独立である。

演習問題 2.24 行列  $A$  を演習問題 2.16 のものとする。行列  $A$  に対し  $f_A$  の核  $\text{Ker}(f_A)$  及び像  $\text{Im}(f_A)$  の基底を求めよ。

演習問題 2.16 で生成系を求めている人はその 1 次独立性をチェックすればよいだけです。そうでない人は 1 次独立な生成系を見つけて, それが 1 次独立である事をチェックしてください。ここでは (1) のみ示しておく。

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \text{ であるが, 演習問題 2.16(1) はすでに解かれていて,}$$

$$\text{Ker}(f_A) = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix} \in \mathbf{K}^4 \mid x_2 = x_3 = x_4 = 0 \right\},$$

$$\text{Im}(f_A) = \left\{ \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \\ y_4 \end{pmatrix} \in \mathbf{K}^4 \mid y_4 = 0 \right\}$$

が分かっているものとする。  $x_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$  とおく。  $x_1$  が  $\text{Ker}(f_A)$  の基底である事を示す。  $x_1 \neq 0$  よ

り  $x_1$  は 1 次独立である。また  $x_1 \in \text{Ker}(f_A)$  より  $\langle x_1 \rangle \subseteq \text{Ker}(f_A)$  となる。逆に  $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix}$  を

$$\text{ker}(f_A) \text{ の任意のベクトルとすると } x_2 = x_3 = x_4 = 0 \text{ なので } x = \begin{pmatrix} x_1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = x_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = x_1 x_1$$

となり,  $x \in \langle x_1 \rangle$  が分かる。よって  $\text{Ker}(f_A) = \langle x_1 \rangle$  となり,  $x_1$  が基底である事が分かる。

$\mathbf{y}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{y}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{y}_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$  とおく。 $\mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3$  が  $\text{Im}(f_A)$  の基底である事を示す。

$a_1\mathbf{y}_1 + a_2\mathbf{y}_2 + a_3\mathbf{y}_3 = \mathbf{0}$  とすると,  $a_1 = a_2 = a_3 = 0$  となるので,  $\mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3$  は 1 次独立である。 $\mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3 \in \text{Im}(f_A)$  なので,  $\langle \mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3 \rangle \subseteq \text{Im}(f_A)$  となる。逆に  $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \\ y_4 \end{pmatrix}$  を  $\text{Im}(f_A)$  の

任意のベクトルとすると,  $y_4 = 0$  である。よって  $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \\ 0 \end{pmatrix} = y_1\mathbf{y}_1 + y_2\mathbf{y}_2 + y_3\mathbf{y}_3$  となり,

$\mathbf{y} \in \langle \mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3 \rangle$  が分かる。よって  $\text{Im}(f_A) = \langle \mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3 \rangle$  となり,  $\mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3$  が  $\text{Im}(f_A)$  の基底である事が分かる。

演習問題 2.25 次のベクトル空間の次元を求めよ。

$$(1) V = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^2 \mid x + 5y = 0, x + 3y = 0 \right\}$$

$$(2) V = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^2 \mid x + 5y = 0 \right\}$$

$$(3) V = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x + 2y + 3z = 0 \right\}$$

$$(4) V = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^4 \mid x + 4y - z + w = 0, 2x + 3y + z - 4w = 0 \right\}$$

$$(5) V = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^4 \mid x + 4y - z + w = 0 \right\}$$

$$(6) V = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle$$

$$(7) V = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix} \right\rangle$$

$$(8) V = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 5 \\ 5 \\ 5 \end{pmatrix} \right\rangle$$

$$(9) V = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ -3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \\ 0 \\ -4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix} \right\rangle$$

$V$  の基底を求める事ができれば、その個数が次元になる。よって  $V$  の基底を見つけられればよい。(1)–

(5) の様なタイプはすでに何回かやっているのだから、ここでは (8) を考える。 $V = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 5 \\ 5 \\ 5 \end{pmatrix} \right\rangle$

という形をしているので、この 3 つのベクトルの組が 1 次独立なら、これが基底になるが、そうではない。

$$\mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix} \text{ とおくと、} \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \text{ が } V \text{ の基底である事を示す。} a_1\mathbf{x}_1 + a_2\mathbf{x}_2 = \mathbf{0}$$

が成立しているとするとき、 $a_1 + 3a_2 = 0, 2a_1 + 2a_2 = 0, 3a_1 + a_2 = 0$  が成立している。代入して計算すると、(ここでは計算過程を省略しているが、計算過程を省略しない方が、間違った場合部分点が与えられる可能性が多い。)  $a_1 = a_2 = 0$  を得るので、1 次独立である。

$$\mathbf{x}_3 = \begin{pmatrix} 5 \\ 5 \\ 5 \end{pmatrix} \text{ とおく。} \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \in \langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3 \rangle \text{ となるので } \langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \rangle \subseteq \langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3 \rangle \text{ である。}$$

$$\mathbf{x}_3 = \begin{pmatrix} 5 \\ 5 \\ 5 \end{pmatrix} = \frac{5}{4} \begin{pmatrix} 4 \\ 4 \\ 4 \end{pmatrix} = \frac{5}{4} \left\{ \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix} \right\} \text{ となるので、} \mathbf{x}_3 \in \langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \rangle \text{ である。よっ}$$

て  $\langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3 \rangle \subseteq \langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \rangle$  が成立している。よって  $\langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3 \rangle = \langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \rangle$  となり、 $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$  が  $V$  の基底である事が分かる。

以上により  $V$  は 2 次元である。